

潮流

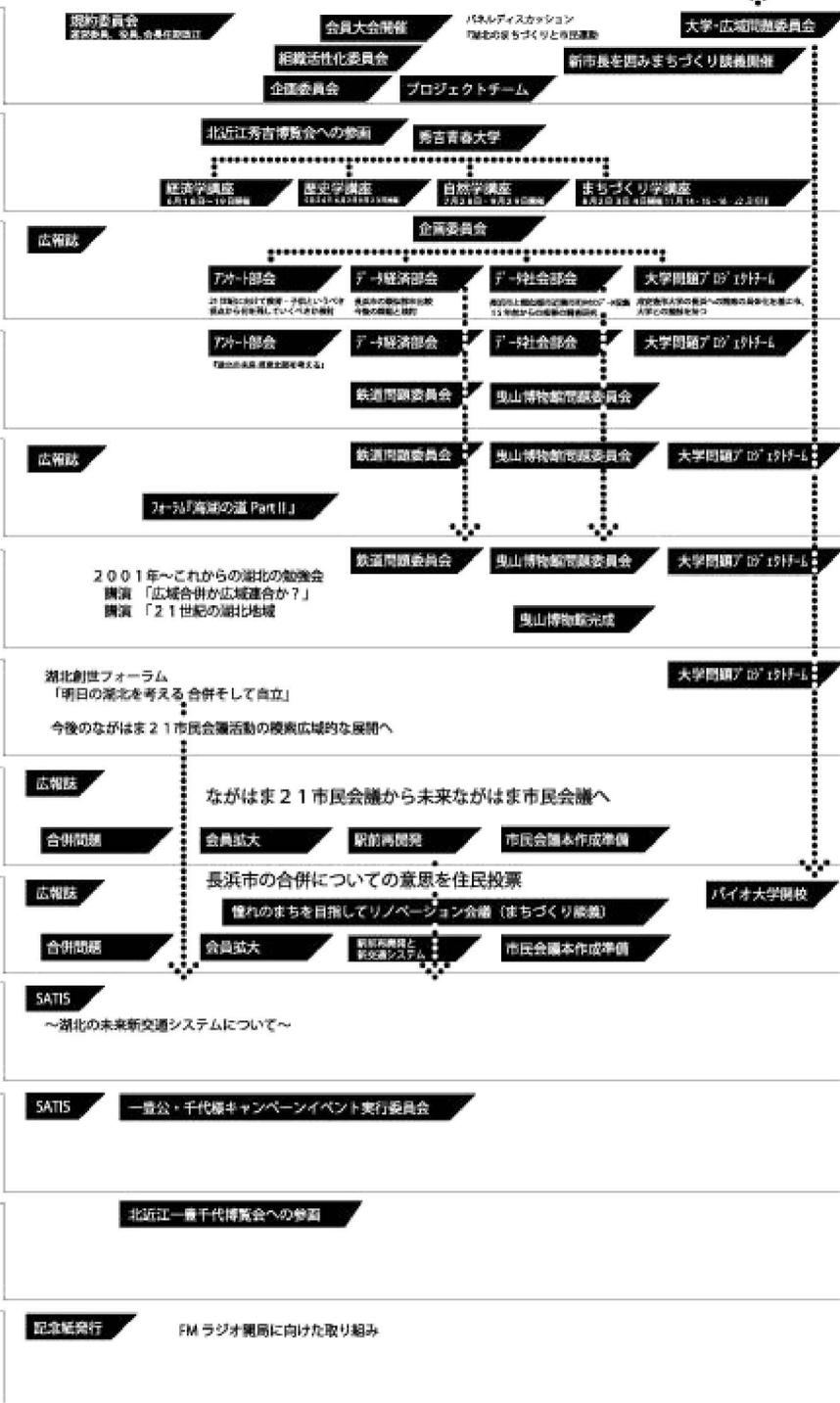
— ちようりゆう —

未来ながはま市民会議

市民会議の歴史

1983 昭和 58 年 個人会員 206 賛助会員 30	1月設立 シンポジウム『これからのが湖北長浜』 新市長を囲み将来の長浜について 討論を行なった(参加者250名)	広報誌	市民憲章制定の提言
1984 昭和 59 年 個人会員 219 賛助会員 112	市民フォーラム '84『よみがえれ湖北長浜』 まちづくりの先進地の視察をまねき、 まちづくりについての分科会を行なった。 (参加者240名) 市長懇談会	広報誌 ×2回	長浜に市民憲章の準備委員会が作られる
1985 昭和 60 年 個人会員 262 賛助会員 108	シンポジウム『これからのが湖北長浜』 -知事と語る-がはま21世紀への行動計画 知事を読みこごで三つの構案がなされた (参加200名) 市長懇談会	広報誌	市民憲章制定
1986 昭和 61 年 個人会員 294 賛助会員 100	市長懇談会 市議会議員懇談会 市行政若手担当者懇談会	広報誌	全天候型競技場の建設
1987 昭和 62 年 個人会員 214 賛助会員 72		広報誌	北陸線の直流化
1988 昭和 63 年 個人会員 223 賛助会員 119		広報誌 ×3回	大学等の誘致
1989 平成元年 個人会員 207 賛助会員 99	委員会制の組織にする 委員原簿の作成	広報誌	びわ湖一周湖特急 特急列車を便いはじめてびわ湖を 一周した。県内では湖北に関心を 持ってもらえるようなゲームや 様々なイベントを開催した。 (参加者422名)
1990 平成 2 年 個人会員 347 賛助会員 120	シンボルマークの決定	広報誌	東京ドームエクスプレス 北陸線の直流化と全天候型競技場の建設を 目指して長浜駅発東京行きの特急列車を 仕立て、車内でイベントを行ないながら 東京ドームで開放観戦をした。 (参加者400名)
1991 平成 3 年 個人会員 393 賛助会員 133	STEP 特別委員会設置 ギャラリー 21	広報誌 ×2回	長浜までの直流化が決定
1992 平成 4 年 個人会員 465 賛助会員 147	総会 STEP の発表	広報誌 ×2回	長浜駅周辺再開発プラン (STEP) 長浜駅周辺再開発委員会
1993 平成 5 年 個人会員 406 賛助会員 148	役員名簿のパソコン管理	広報誌 ×2回	6・20長浜ドームオープン
1994 平成 6 年 個人会員 412 賛助会員 142	大相模長浜ドーム場所参画 試大会委員会 広報委員会	広報誌	大学誘致情報収集 長浜ドーム着工 長浜駅周辺再開発委員会 STEP 駅周辺再開発委員会 成安造形大学学長との懇談会
			2・26びわこドッグ駅-南選手権大会 成安造形大学学長との懇談会 ドーム運営委員会

1995 平成 7 年	個人会員 304	賛助会員 96
1996 平成 8 年	個人会員 349	賛助会員 113
1997 平成 9 年	個人会員 137	賛助会員 105
1998 平成 10 年	個人会員 111	賛助会員 112
1999 平成 11 年	個人会員 135	賛助会員 97
2000 平成 12 年	個人会員 106	賛助会員 88
2001 平成 13 年	個人会員 85	賛助会員 72
2002 平成 14 年	個人会員 93	賛助会員 68
2003 平成 15 年	個人会員 83	賛助会員 55
2004 平成 16 年	個人会員 58	賛助会員 51
2005 平成 17 年	個人会員 39	賛助会員 38
2006 平成 18 年	個人会員 39	賛助会員 38
2007 平成 19 年	個人会員 39	賛助会員 38



市民憲章制定

ながはま 21 市民会議が設立されて最初に取り組んだのが市民憲章の制定である。当時滋賀県下にあった 7 つの市の中で唯一長浜市のみが市民憲章を制定していなかったこともあり、市民から提唱された市民憲章というコンセプトで、市政 40 周年に際し、提案できるように草案委員会にて練り上げられ、市民会議案の作成がなされ、長浜市と長浜市議会に陳情と請願を出された。これに呼応し長浜市においても、市民憲章の準備委員会が作られ、昭和 61 年 3 月 26 日に制定される運びとなった。これにより、会員拡大を図っていた当時、会の運営委員の士気を高め、今後の活動に繋がる貴重な最初の一步となった。

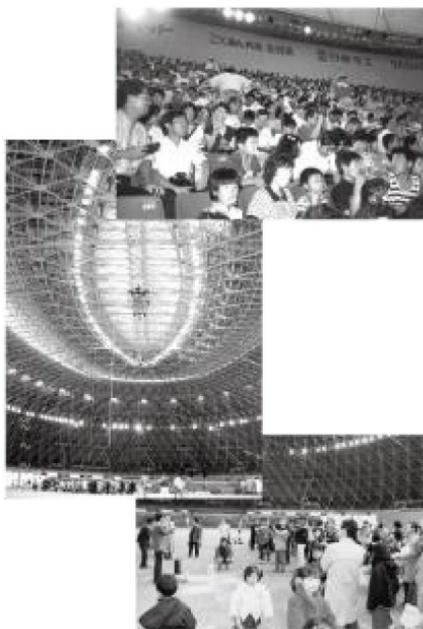
市民憲章草案

1. 歴史と伝統を現在に生かし、活力と風格のあるまちをつくります
2. めぐまれた自然を愛し安全で快適なまちをつくります
3. 人間性をはぐくみ創造性にみちた文化と教養のまちをつくります
4. からだと心を見がき健康で生きがいのあるまちをつくります
5. 自由な発想のもとに未来と世界をみつめるおおらかなまちをつくります



全天候型競技場の建設 長浜ドーム

北陸地方は滋賀県の中でも雪が多い地方であり、冬場はスポーツ競技をすることが困難であった。そのため全天候型の競技場を建設し、スポーツの殿堂とするとともに、まちづくりの起爆剤として全天候型競技場の建設を目指し、市民運動として取り組んだ。その中でも昭和 63 年に行われた「長浜ドームエクスプレス」では、400 名の市民とともに長浜発東京行きの特別列車で、一泊二日東京ドームを見学するという事業を行なった。又、県行政当局へ度重なる陳情を繰り返し、当初 30 億円の屋根付グラウンドの予定ではあったが、最終的には総事業費 70 億円をこえる「滋賀県立長浜ドーム」完成へと至った。



北陸線直流化

従来、東海道本線をはじめ多くは直流区間であったが、北陸本線は交流区間となっており、特殊な車両を除いては列車の乗り入れをすることができなかった。京阪神地方から来るには米原駅で乗換えをする必要があり、しかも本数の少ない列車に待たされるという現状であった。そこで、直流化することによって、直接乗入れすることができ、京阪神への時間が大幅に短縮すると同時に、琵琶湖を一周する環状線の実現を目指した。昭和62年「びわこ一周夢特急」の事業では特別列車をチャーターし、400人の市民に琵琶湖を一周するという企画で大きなインパクトを与えることができた。又、度重なる行政当局への陳情や市民啓発の事業を行う中で、行政には北陸本線直流化期成同盟が作られ、市民団体としては「北陸線直流化市民の会」が生まれ、6万人の署名が集まった。そして平成3年9月14日、待望の長浜発大阪行きの快速電車が走り、さらに平成18年秋の新長浜駅舎改築とほぼ時を同じくして、敦賀まで直流化が延伸され琵琶湖環状線の夢が現実のものとなりつつある。



大学の誘致

「長浜を若者の集まる街にしたい」との思いで取り組み始める。大学等の教育機関を誘致すれば自然と若者が街に来てくれるという発想で、様々な可能性を模索していった。

「黒壁」＝「ガラスの街」ということで、そのような技術を学べると同時に芸術に強いまちへという思いで、成安造形大学に打診し、学長との懇談会を数度に亘り開催。大学のひとつのセクションを長浜に誘致する案など有意義な話し合いが出来た。また長浜市名誉市民第一号で、湖北にゆかりの深い西田天香氏の一燈園学園との懇談会でも活発な意見、提案が出され、大学誘致情報の収集を行い、市民の声として湖北へ発信をしていった。

それが、実を結び、平成15年4月1日に長浜バイオ大学開校という運びとなった。



1982

昭和 57 年

【主な取組み】

- ・明日の長浜を考える市民シンポジウム
『これでいいのか湖北長浜』

【事業内容】

- ・明日の長浜を考える市民シンポジウム
『これでいいのか湖北長浜』

9月26日、長浜商工会議所大ホールにて湖北の活性化を目指す私達の提唱した「ながはま21市民会議設立準備会」の主催で行った。21世紀を担う子どもたちに私達のまち「ながはま」を、誇りを持って引き継ぐために、今こそ英知を集結し具体的な行動を起こさなければならないと提言がなされた。

シンポジウム『これでいいのか湖北長浜』

日時 9月26日

主催 市民会議発起人会の準備委員会

後援 社団法人 長浜青年会議所

場所 長浜商工会議所 大ホール

- 内容
1. 県下七市の比較資料の発表
 2. 基調講演『滋賀県にとっての湖北』
講師 滋賀県知事 武村正義氏
 3. パネルディスカッション
『これでいいのか湖北長浜』



1983

昭和 58 年

【主な取組み】

- ・明日の長浜を考える市民シンポジウム
『これでいいのか湖北長浜-新市長にのぞむ』
- ・市民憲章草案作成と
長浜市への市民憲章制定の働きかけ

【事業内容】

- ・明日の長浜を考える市民シンポジウム
『これでいいのか湖北長浜-新市長にのぞむ』

9月24日、ながはま21市民会議が長浜商工会議所大ホールにて10月の市長選を控える時期に地域の21世紀を展望し、活性化に向け新市長にアピールしようとする活発な議論を行った。約250人の市民が参加し、国鉄常務理事の伊能忠敏氏が「長浜の未来をこう考える」という講演を行い、地方都市の進む道についてアドバイスされた。

- ・市民憲章草案作成と

長浜市への市民憲章制定の働きかけ

当時滋賀県下にある7つの市の内、唯一市民憲章を持っていなかった長浜市に対して働きかけた。



湖北のあゆみ

4月28日

長浜駅前通りの拡幅改良が着手から
30年を経て完了

湖北のあゆみ

3月15日

市立図書館オープン

4月5日

市制40周年を機に長浜城歴史博物館と
旧鉄道資料館が開館

【主な取組み】

- ・市長との懇談会
- ・市民フォーラム'84

『よみがえれ湖北長浜-揺ろう未来のまちづくり』

【事業内容】

- ・市長との懇談会
市長を始め7名の市関係者と、市民会議11名、社団法人長浜青年会議所8名で懇談会を開いた。議題としては、1)大雪対策について、2)市民憲章について、3)博物館構想について、4)祭りについて、幅広く意見を交換しあった。
- ・市民フォーラム84

『よみがえれ湖北長浜-揺ろう未来のまちづくり』

湖北長浜の地盤沈下が叫ばれる中、今回は長浜の現状を見つめつつ、外部に目を向けダイナミックな実行力、情熱を持った他の地域からその智恵を学び長浜にインパクトを与えようと開催された。12月2日、市民フォーラム'84では240名の参加者を動員し、大阪21世紀協会の上野隆徳氏、大阪をあんじょうする会の森一貫氏、神戸市役所企画課の高寄井三氏、商店街コンサルタントの山岡正勝氏を招き、まちづくりに対し熱く議論した。

【主な取組み】

- ・長浜市商工会議所会頭と懇談会
- ・市長懇談会
- ・シンポジウム『これでいいのか湖北長浜
-知事と語る-ながはま21世紀への行動計画』
- ・まちづくり懇談会

【事業内容】

- ・長浜市商工会議所会頭と懇談会
7月16日、長浜市商工会議所の石居会頭、長浜主婦連の河瀬副会長と高橋会長の3名で「駅前再開発計画」の提言について懇談した。
- ・市長懇談会
7月16日、北陸本線直流化問題、駅周辺の整備および再開発、若者の定着の手段である工場誘致、大学誘致について懇談した。
- ・シンポジウム『これでいいのか湖北長浜
-知事と語る-ながはま21世紀への行動計画』
11月21日、参加200名を集め今までの成果を踏まえつつ踏まえつつ、市民会議の原点である市民が相集い共に考える場として、また論点を具体的に絞り21世紀を見据えた息の長い運動へ繋げる目的でシンポジウムを開催した。武村知事を囲みここで3つの提言がなされた。
 - 1) 鉄道問題と長浜駅再開発について、
 - 2) 大学等教育機関の創設について、
 - 3) 全天候型競技場の建設と湖周道路の全線開通について
- ・まちづくり懇談会
11月25日、都市開発コンサルタント淀野隆之氏を迎え、「湖北地方のまちづくりとキャンペーンプログラムについて」の講演と参加者との意見交換を行った。

民フォーラム'84 よみがえれ湖北長浜

——揺ろう未来のまちづくり——



市民フォーラム'84



湖北のあゆみ

8月 6日

花火大会（ありがとう花火）開始

11月 3日

第1回長浜きもの大園遊会開催

湖北のあゆみ

3月

長浜市保健センターを宮司町に設置

6月 30日

第1回アイアンマン・ジャパン

・インびわ湖を開催（平成9年まで）

1986

昭和 61 年

【主な取組み】

- ・長浜市議会議員との懇談会
- ・武村代議士との懇談会
- ・全天候型競技場に関する懇談会
- ・長浜市長との懇談会

【事業内容】

- ・長浜市議会議員との懇談会
9月29日、長浜市役所にて長浜市議会議員との懇談会が行われた。全天候型競技場について、北陸本線直流化問題について、大学誘致について懇談。
- ・武村代議士との懇談会
10月4日、武村ムーミンハウスにて、全天候型競技場について、北陸本線直流化問題について懇談。
- ・全天候型競技場に関する懇談会
10月9日、滋賀県庁にて、青少年社会教育課課長、企画部次長、秘書課参事の方との懇談
- ・長浜市長との懇談会
11月7日、長浜市役所にて、全天候型競技場について、北陸本線直流化について懇談

1987

昭和 62 年

【主な取組み】

- ・春の北国街道散策
- ・新市議会議員との懇談会
- ・琵琶湖一周夢特急

【事業内容】

- ・春の北国街道散策
3月29日、北国街道沿いにて、会員および会員家族を対象に、黒壁等復興著しい北国街道を散策した。
- ・新市議会議員との懇談会
6月27日、長浜市役所にて、新議員の「21世紀に向けてのまちづくり論」を拝聴し、当市民会議は活動趣旨や概論、運動展開の方向性について説明を行い、相互理解の場となった。
- ・琵琶湖一周夢特急
昭和60年のシンポジウムにて提言された「北陸本線直流化」の実現を目指して企画。九両編成の特急列車が422名の乗客を乗せて琵琶湖を一周した。列車を利用ということで分刻みのスケジュールでイベントを企画し、びわ湖放送でも放映されるという大規模なイベントであった。直流化に対するPRと共に市民にも幅広く呼び掛けた。

『琵琶湖一周夢特急』

日時 10月14日
主催 ながはま21市民会議
後援 社団法人 長浜青年会議所・
長浜市・直流化期成同盟
共催 滋賀県
協賛 観光協会・びわ湖放送



湖北のあゆみ

4月 1日

長浜市民憲章制定

10月 21日

国道8号線バイパスが全線開通

湖北のあゆみ

10月 8日

鹿児島県西之表市と友好都市提携

10月 31日

第1回芸術版楽市楽座開催

【主な取組み】

- ・長浜ドームエクスプレス

【事業内容】

- ・長浜ドームエクスプレス

重要なテーマでもある「北陸線直流化」、「全天候型競技場の建設」への取組みを同時に一般市民にPRする目的で、社団法人長浜青年会議所と合同実行委員会を組織した。5回にわたり委員会を開催し企画を練った。

長浜発の特別臨時列車（夜行）で東京ドームへ行き、プロ野球の「日本ハムファイターズVS南海ホークス」を観戦。行き帰りの車内では「長浜ドーム」建設のPR、併せて北陸線直流化の必要性等イベントを通じ、広く一般市民にPRをおこなった。



【主な取組み】

- ・組織の編成

【事業内容】

- ・組織の編成

昭和62年「びわ湖一周夢特急」、昭和63年「長浜ドームエクスプレス」の事業を成功させ、広く行政、また一般市民に市民会議の運動をPRし、実現に向けて一步一步前進した。そのことを踏まえ、組織を細かく委員会制にし、それぞれが活発に動くことにより内部充実をはかった。

- ・広報委員会

広報誌の発行 11月15日 第12号発行

- ・拡大委員会

全会員および事業参加協力者のリスト整理
個人カードの作成

- ・鉄道問題委員会

7月15日 JR西日本来社、県への陳情（北陸線直流化について）

10月20日 伊藤県会議員との懇談会／第一段階として長浜までの直流化の回答を得る（鉄道問題について）

- ・全天候型競技場推進委員会

7月13日 県への陳情（全天候型競技場建設について）

- ・大学等誘致委員会

他地区での大学誘致に対する現場調査



湖北のあゆみ

4月11日

第3セクターによる黒壁壁設立

湖北のあゆみ

5月27日

市民交流センター完成

6月11日

神原運動公園（陸上競技場）供用開始

7月1日

黒壁ガラス館オープン

1990

平成 2 年

【主な取組み】

- ・特別列車『春一番市民号』
- ・シンボルマークの決定
- ・対外版『まちづくりとしての北陸線の直流化』を発行
- ・まちづくり懇話会

【事業内容】

- ・特別列車『春一番・市民号』
北陸線直流化の早期実現を目指し、特別列車アストル号で大阪へ行き、JR西日本へ陳情するとともに、大阪駅にて長浜のPR活動を行なった。
- ・シンボルマークの決定
当会のシンボルマークを一般市民から公募。多数者せられた中からこのマークが選ばれた。
21世紀に向かって羽ばたく鳥を、ながはまの頭文字「N」、21世紀の21と組み合わせで表現した。
- ・まちづくり懇話会
10月22日、広域問題への取組みで、米原町の方々とのまちづくり懇話会を米原公民館にて開催した。米原町助役をはじめ11名と、当会より10名にて有意義な意見交換を行なった。

1991

平成 3 年

【主な取組み】

- ・STEP特別委員会設置
- ・ギャラリー-21の開催
- ・北陸線直流化記念事業
- ・駅周辺開発パースの完成

【事業内容】

- ・STEP特別委員会設置
組織にSTEP（駅周辺開発）特別委員会が設置された。S (Station) = 駅、T (Town) = 街、E (Excellence) = 卓越・傑出、P (Plan) = 計画。
- ・ギャラリー-21の開催
駅を中心とした新たなコミュニティ構築への活動のひとつとして、長浜駅2階に市民のサロン・憩いの場という位置づけで、『ギャラリー-21』を開設。観光客以外にも、小中学校にPR用チラシを配布し親子で入場してもらえよう工夫し様々な情報提供をした。
- ・北陸線直流化記念事業
9月14日、長浜公園自由広場を中心に10日間に亘って開催した。設立当初から大きな柱の一つであった『北陸線直流化』が現実のものとなり、当会が記念事業の企画運営の中心となり社団法人長浜青年会議所も全面的にバックアップした。3ヶ月に亘る会議や2000名動員のボランティア等々、行政・市民・市民会議がまさに一体となった事業で大成功を収めた。
- ・駅周辺開発パースの完成
生氣のある新空間創造をコンセプトに、人が住み・動き・集う・長浜市民としての新たな生活空間の発表をした。



湖北のあゆみ

2月16日

大通寺で第1回馬酔木展の開催

9月26日

第3回全国健康福祉祭

「ねんりんピック 90 びわこ」開催

湖北のあゆみ

4月1日

公共下水道一部供用開始

9月14日

米原～長浜間北陸本線直流化により長浜駅が
新快速電車の発着駅に

【主な取組み】

- ・会員全員対象の總會開催および長浜ドーム完成前の見学会
- ・長浜ドームオープン
- ・広域問題委員会の設置

【事業内容】

- ・会員全員対象の總會開催および長浜ドーム完成前の見学会
2月2日、長浜商工会議所にて一般会員対象に總會を開き、経過報告とSTEPに関する概要説明、および駅周辺の完成予定図（パース）を公開し、具体的な説明を行なった。また長浜ドーム完成前に、いち早く会員の方々に見学していただいた。
- ・長浜ドームオープン
6月20日、柱の一つ『全天候型競技場の建設』を目標に運動してきた長浜ドームが完成した。それに伴い今後どのようにドームを発展させていくかを考える「ドーム運営計画委員会」を新設する。

・広域問題委員会の設置

湖北を大きな一つの都市として考え、10万人都市の実現を目標とし、合併に関しては、過去からの市民や行政等広く資料を集め、さらにこれからの湖北について十分に検討しこの先5年10年と時間をかけて進めていけるよう委員会を設置する。

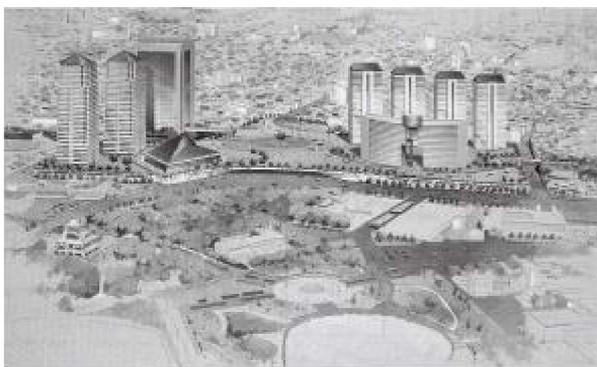


【主な取組み】

- ・対外向け広報誌発行
- ・成安造形大学学長との懇談会
- ・長浜駅周辺再開発プラン懇談会

【事業内容】

- ・対外向け広報誌発行
1月に対外向け、12月に对内向け広報誌を発行し、ながはま21市民会議の活動報告や、住民からの意見の吸い上げを行なった。
- ・成安造形大学学長との懇談会
3本柱の一つである『大学等教育機関の誘致』に関して、本年度大津に開校した成安造形大学学長と今後の大学のあり方等について懇談会を開催した。お互いに前向きに話を進めていくことで合意、高等教育機関の誘致の足がかりとなる。
- ・長浜駅周辺再開発プラン懇談会
STEP駅周辺再開発委員会では、行政が考えている長浜駅周辺の再開発プランの進捗状況を知る上で、行政（都市整備課）との懇談会を湖北経済交流プラザまちづくり協議会を交え11月30日に開催した。北陸本線が直流化され乗降客が大幅に増えた中で、湖北の玄関口である長浜駅周辺にはどのような開発がふさわしいのかという議論を充分に重ね意見・要望まとめの行政へ投げかけた。



湖北のあゆみ

6月20日

県立長浜ドームオープン

7月30日

伊ヴェローナ市と姉妹都市提携

湖北のあゆみ

4月10日

第1回びわ湖長浜ツーデーマーチ開催

10月5日

曳山子ども歌舞伎のアメリカ公演

1994

平成 6 年

【主な取組み】

- ・STEP駅周辺再開発調査
- ・びわこドッジボール選手権開催
- ・大相撲長浜ドーム場所参画
- ・成安造形大学学長との懇談会

【事業内容】

- ・STEP駅周辺再開発調査
長浜駅の周辺再開発の議論を重ね、地域住民、地元前店街ならびに現在駅前前の核である平和堂の動向について調査を実施し、平和堂長浜店の地権者でもある日比氏との懇談会を開催した。STEP発表後、個々の商店街が結集され巴瑠夢ロードという広域的な前店街として展開されている。
- ・びわこドッジボール選手権開催
長浜ドームの有効利用を考え、2月26日に『びわこドッジボール選手権大会』を開催した。滋賀県内から多くのチームが参加し、白熱した大会となった。ドーム運営計画委員会は競技審判を担当した。
- ・大相撲長浜ドーム場所参画
10月12日、『大相撲長浜ドーム場所』が開催された。ドーム運営計画委員会も全員大相撲長浜ドーム場所運営委員会に属し、長浜市制50周年記念行事として8000名の観客を集め盛大に開催することができ、長浜ドームの有効利用の一助となった。
- ・成安造形大学学長との懇談会
広域問題委員会では、平成5年より成安造形大学の一つのセクションを誘致する話や、長浜にゆかりの西田天香氏の一燈園が大学設立に向かっての話を進める。

1995

平成 7 年

【主な取組み】

- ・会員大会の開催
- ・新市長を囲みまちづくり談義の開催

【事業内容】

- ・会員大会の開催
3月12日、長浜ロイヤルホテルにて103名の会員の出席を得て会員大会が開催され、総会、パネルディスカッション、懇親会の三部構成で進行された。第1部の総会では、事業経過、および事業決算が報告された。第2部では上田昌之虎姫町長、滋賀総合研究所の秦憲志氏をパネラーに迎え、高橋会長のコーディネートにより『湖北のまちづくりと市民運動へすみやすさ第二位の長浜は今～』のテーマのもと活発な議論がなされ、今後の活動の指針とすべき示唆に富む内容であった。第3部では各委員会の活動報告の後、会員相互の懇親の場ももたれた。
- ・新市長を囲みまちづくり談義の開催
12月21日、YES長浜にて会員54名参加のもと、清水新長浜市長を囲みまちづくり談義が開催された。清水長浜市長、上田虎姫町長、三山山東町長をゲストに迎え、『鬼山博物館構想』、『秀吉フェア』、『大学誘致』、『駅前再開発』について市長より現況報告をいただいた。また社団法人長浜青年会議所による『湖北連邦構想』の事業報告をおこない、それに対し各首長から今後ますます広域的なまちづくり運動が重要であるご意見をいただいた。



湖北のあゆみ

10月20日

映画「男はつらいよ」のロケを開始

湖北のあゆみ

8月19日

SL北びわこ号が38年ぶりに湖北路を走る

【主な取組み】

- ・北近江秀吉博覧会への参画

【事業内容】

- ・北近江秀吉博覧会への参画

北近江秀吉博覧会の開催にあたり、全面的に参画。本城会長は北近江秀吉博覧会実行委員会副委員長、メンバーは全員秀吉博覧会運営委員という形で関わる。4月7日～11月30日までの238日間というロングランのまちづくりイベントを成功させる為、ボランティアの市民の方々と一丸となった結果、予想をはるかに上回る80万人以上の入場者を記録し大成功裡に終えることができた。

また博覧会のソフトの部分ともいえる広域部会では、事務局でもある社団法人長浜青年会議所を中心に『秀吉青春大学』と銘打って歴史、自然、まちづくり、経済を題材に数々の市民大学風のイベントを行なった。

～秀吉青春大学～

歴史学講座 『湖北寺子屋めぐり湖北歴史案内人を訪ねて』

自然学講座 『秀吉も聴せた邦』湖北の自然十三選めぐり』

まちづくり講座 『新まちづくり考』『近江戦国考』

経済学講座 『温故知新～サクセスストーリー～秀吉経済学物語』

【主な取組み】

- ・ながはま21市民会議が発足した経緯の原点に立ち返り21世紀を見据え市民会議として、何をすべきか改めて議論する。
- ・「都市データバンク」発行元である東洋経済新報社の玉岡副部長による講演

【事業内容】

- ・アンケート部会…21世紀に向けて、教育や子どもという視点から何を残していくべきかを検討した
- ・データ社会部会…長浜市と類似都市の比較をするため各データの収集を行い、客観的なデータから見た長浜を知り今後の課題の検討を行った
- ・データ経済部会…長浜市と類似都市・近隣市町村の様々なデータと5年・10年・15年にさかのぼり数値に置き換え、移り変わりを調査・研究を行った。
- ・大学問題
プロダクト…大学誘致問題について成安造形大学の長浜への一学部設置の具体化を基に市民サイドから大学への接触をもつ



湖北のあゆみ

4月7日

北近江秀吉博覧会開催（同11月30日まで）

5月1日

市立長浜病院が大大塚町に新築移転

湖北のあゆみ

「都市データバンク」にて長浜市が住み良さ
ランキング三年連続日本一になる

1998

平成 10 年

【主な取組み】

- ・「湖北の未来 県東北部を考える」懇談会
- ・滋賀環境ビジネスメッセ 98 参画
- ・JCI 世界会議「褒賞（まちづくり推進賞）」申請

【事業内容】

- ・「湖北の未来 県東北部を考える」懇談会地域主権型社会の到来を目指した中で、一昨年県が発表した『湖国ストーリー 2001』の作成に携われた滋賀県企画県民部企画課総括員の秋山茂樹様をお迎えして、将来に向けた県東北部の在り方についての懇談会を実施した。また、第二弾として長浜の現状を企業経営者・行政マン・企業からの派遣学生とそれぞれの立場で学術的に長浜を研究されている立命館大学大学院「高田昇ゼミ」研究生の方々の研究成果と長浜に対して感じられたことをお聞かせいただき、今後の長浜の方策を模索した。
- ・滋賀環境ビジネスメッセ 98 参画
『滋賀環境ビジネスメッセ 98』では、プロジェクトチームに参画。当日は出展協力として、湖北の自然の紹介・湖北の自然 13 選カレンダーを配布した。
- ・JCI 世界会議「褒賞（まちづくり推進賞）」申請
事務局を運営している社団法人長浜青年会議所の市民会議推委員会では、本年 15 年目を向かえた当会の活動を編集し、活動の成果をフィリピンのマニラで行なわれる JCI 世界会議の褒賞（まちづくり推進賞）に申請を行なった。



湖北のあゆみ

5月 21 日

東部福祉ステーション「郷里荘」オープン

10月 21 日

第 1 回環境ビジネスメッセの開催

1999

平成 11 年

【主な取組み】

- ・『琵琶湖環状線実現に向けて』講演会実施
- ・曳山博物館の在り方について
- ・ながはま 21 市民会議ホームページ立ち上げ

【事業内容】

- ・『琵琶湖環状線実現に向けて』講演会開催
湖北地域活性化と鉄道問題に着目し、滋賀県企画県民部交通政策課の南部宏幸氏を講師に迎え『琵琶湖環状線実現に向けて』と題し、講演会を開催。北陸本線の現状把握や北陸線直流化・琵琶湖湖環状線計画の現状やその効果について意見交換を行なった。
- ・曳山博物館の在り方について
曳山博物館委員会では長浜市街地のまちづくりを検討する中で 2000 年春に建物が完成する曳山博物館や駅周辺再開発について議論した。特に地元市民団体として長浜市街地の中核施設のひとつとなる曳山博物館については、曳山博物館開設準備室との懇談会など情報収集を行い、当会が考える曳山博物館の在り方について議論を深めた。
- ・ながはま 21 市民会議ホームページ立ち上げ
当会の政策理念をより多くの方に周知させるため広報活動に取り組む。年末にホームページを立ち上げ、これからの活動や政策提言を発信していくツールとする。



湖北のあゆみ

4月 1 日

クリスタルプラザ全面稼働

【主な取り組み】

- 各分科会にて専属的に活動
- 2001年～これからの湖北の勉強会
- 講演 「広域合併か広域連合か？」
- 講演 「21世紀の湖北地域」

【事業内容】

- ・企画室…2010年の湖北地域のビジョンを考え新交通システムとして湖上交通の事業化や、市街地に於ける自転車の有効性を再考しサイクリングロードの調査の必要性について議論する。
- ・鉄道問題委員会…琵琶湖環状線をイメージさせるジオラマ制作の見積を業者に確認し、琵琶湖環状線という言葉を送達させる事業の検討を議論する。
- ・曳山博物館委員会…長浜龍のまちづくりにおける曳山博物館の果たす役割と、具体的活用について考える中、曳山博物館開館実行委員会は7月より準備され、10月1日より1ヵ月間、オープニングイベントが開催され、主要メンバーとして携わる。
- ・大学問題プロジェクト…バイオ大学の設立に向けた大学設立推進会議へ積極的に関与していく。
- ・広報…ホームページの構成を変え掲示板を設ける。



【主な取り組み】

- 湖北創世フォーラム
- 「明日の湖北を考える合併そして自立」

【事業内容】

- ・湖北創世フォーラム
- 「自分たちの地域は自分たちの手で創る」という住民自治意識の根付いた湖北を構築し、地域間競争社会を生き抜く為の湖北全体のまちづくりの方向性・行政・地域住民の役割を考えるという趣旨のもと開催された。
- 参加者には新しい地域運営のあり方として官民それぞれの役割を明確にした上で、それぞれが「役割」を十分に発揮して地域運営を行っていくことの必要性を強く訴えかけることが出来た。



湖北のあゆみ

- 6月22日 長浜市の人口が6万人を超える
- 10月1日 曳山博物館オープン
- 11月6日
- 湖北地域1市12町の合併検討協議会が設立

湖北のあゆみ

- 4月1日
- 長浜市の幼稚園で3年保育スタート
- 6月
- 長浜赤十字病院の合併検討協議会

2002

平成 14 年

【主な取り組み】

- ・『ながはま21市民会議』から『未来ながはま市民会議』へ
- ・『夢ある湖北合併フォーラム』開催

【事業内容】

- ・『ながはま21市民会議』から『未来ながはま市民会議』へながはま21市民会議は20年のあゆみと実績を残してきた。21世紀を迎え、組織の再編と運営方法の見直しにより、今後更に広域的な展開と夢のある将来を創造していけるよう、名称を変更した。
- ・『夢ある湖北合併フォーラム』開催合併特例法の期限を前に、様々な意見が各自治体、議会内でも盛んに議論されている。10月に社団法人長浜青年会議所とともに湖北一市三郡の4会場において、『夢迫部 座・住民主役の合併会議』という小会議を設け、湖北全体の課題となっている「合併」について、各市町の商工会青年部の方々を中心にご参加いただき、合併の在り方について語り合い意見交換をした。11月10日、それまでの集大成として『夢ある湖北合併フォーラム』と題し、住民が考える真の湖北地域合併の姿をディスカッションした。その思いを湖北全体の方々や行政に対し、幅広く発信することができた。



湖北のあゆみ

5月8日

湖北1月12町の合併検討協議会解散

2003

平成 15 年

【主な取り組み】

- ・長浜市の合併についての意思を問う住民投票
憧れのまちをめざして～リバーシティ会議がまちを変える～
開催
(まちづくり談義)

【事業内容】

- ・「湖北はひとつ」を基本テーマとして、1市12町の合併が実現できるよう、地域住民への呼びかけを行う。長浜市において合併の意思を問う住民投票が行われ、54票差で「1市9町」が1位となり、この結果を受けて、1市9町による湖北地域法定合併協議会が立ち上げられる。しかしながら、引き続き1市12町の合併ができるよう、地域への意識付けや具体的な行動を実践していく方向の中でできる取り組みを各団体がパートナーシップを発揮しながら役割分担を明確にし、最大限の努力を続けて行くことを確認した。
- ・憧れのまちをめざして
長浜商店街連盟・まちづくり役場・佛黒壁・クラブDJ・(社)社団法人長浜青年会議所のメンバーと実行委員会を組織し、それぞれの持てるポテンシャルを発揮し地域内外に向け、訴求力の強い事業を開催した。



湖北のあゆみ

2月16日 長浜市で合併住民投票が実施され、
僅差で「1市9町」が1位となる

4月1日 長浜バイオ大学開校

7月30日 1市9町による法定の湖北地域
合併協議会が設置

2006

平成 18 年

【主な取り組み】

- ・『北近江一豊・千代博覧会』参画

【事業内容】

・『北近江一豊・千代博覧会』参画NR大河ドラマ「功名が辻」の放送に伴い、主人公でもある一豊公・千代様が湖北地域および長浜城にも非常に縁が深いため、湖北地域では1月8日～11月30日までの期間、『北近江一豊・千代博覧会』が開催された。当会では一豊公・千代様キャンペーンイベント実行委員長に国友会長、事務局には中川事務局長が就任され、博覧会での中核を担った。1月8日の記録的な大雪の中、曳山博物館でのオープニングイベントを皮切りに、JR京都駅にて長浜市・高知県・掛川市による功名が辻ゆかりの地合同出陣式、夫婦やカップルで力を合わせて功名をねらった『知力・体力・時の運〜愛と絆の功名選手権』。FMウォークin北近江のオープニングイベントでは乙葉さん、前田吟さんが来場。長浜市街地だけではなく、縁のある米原市や虎姫町を結ぶ巡回バスの運行、湖北一番でのドラマツアーの実施、ツアーセンターの設置など広域観光の推進にも大きな役割を果たした。フィナーレイベントでは地域の皆様によるステージ公演や、2000万個の玉燈を使った光のトンネル、晩秋の夜空を集めた300発の花火の打ち上げ。327日間に亘るイベントを成し遂げた。合い言葉は「進化する博覧会」。多くの人々がいろいろな知恵を出し合い企画・運営・協賛・応援・実行は、市民と行政が一体となった「長浜方式」で行なわれ、市民会議が目指している市民運動の成功したカタチとなった。

2007

平成 19 年

【主な取り組み】

- ・市民会議記念誌発行
- ・FMラジオ開局に向けた取り組み

【事業内容】

・市民会議記念誌発行
昭和58年に産声を上げた『ながはま21市民会議』は、「全天候型競技場の建設」「北陸線直流化」「大学の誘致」などに尽力。のち『未来ながはま市民会議』へと名称変更し、長浜湖北の発展に大きな足跡を残した。その約四半世紀に亘る歴史を記念誌にまとめた。

- ・コミュニティFM開局に向けた取り組み

現在の湖北地域が来るべき地域主権方社会に向け、地域の力を高め、一体感を喚起し帰属意識を高め、湖北の人々と共に地域の将来を考えていけるように、先ず意識や情報を共有できるシステムの構築が必要だと考え、その手法としてコミュニティFM局は1地域に1放送局を日処に開局されており、湖北地域に根ざした情報発信が可能な媒体である。社団法人長浜青年会議所と共に、開局に向け各地域で活動されている方々に参加を呼びかけ、将来の湖北について議論していただき、開局後は放送局とツアーセンター、まちづくりセンター等を融合させることにより、地域情報の受信基地として今後のまちづくりの強力なツールとしていく。また観光客への観光情報の発信・誘導、ラジオウォークなどのイベント利用、学校や自治会行事の告知、災害時の情報発信など活用の可能性は広範に及び、湖北の民の力と合わせることで、湖北地域の活力が生まれるようコミュニティFM開局に向け突き進んでいく。



湖北のあゆみ

- 1月 8日 北近江一豊・千代博覧会開幕
- 1月 26日 下坂氏館跡が国の史跡に、慶雲館が国の名勝に指定
- 2月 13日 新長浜市誕生

湖北のあゆみ